

## 編集後記

本号は丸山隆司先生のご退職を記念する号として編まれた。

丸山先生には、二十九年の長きにわたり本学科の運営にご尽力いただいた。久々に多数の学科教員が執筆することとなった本号をもって、ささやかながら感謝のしるしとさせていただきますだけだと思います。

筆者が赴任した一九九四年は、丸山先生が一年間のサヴァティカルを終えて戻られた年であったが、復帰早々いきなり学科主任の仕事を担当されることになったのだ、と聞き、やや驚いた記憶がある。何と人使いが荒いことか。（とはいえ、サヴァティカル明けに重い仕事を当てることはその後もしばしば行われている。）

その後は、主任を二期、次いで図書館長、さらに再度の主任を経て文学部長と、立て続けに重い役職を歴任された。この時期、本学は、短大の大学への改組転換、新学科設置等々の激動の時期に当たっており、先生の校務における仕事量は大変なものだったと想像される。ところが、驚くべきことは、こうした校務煩多の時期にありながら、本誌への執筆をはじめ発表論文は一向衰えを知らず、著書さえも数冊上梓しておられる、という事実である。どうしてそのようなことが可能なのか、要領の悪い筆者には正直に言って想像を絶するものがある。誠に敬服のほかない。

本学は今、またしても何度目かの曲り角にさしかかりつつあ

る。学科が、あるいは大学がピンチに陥った際、あるいは道を誤りそうになった際に、丸山先生の大胆な策と根源的な批判によって救われる例が多々あった。このような時期に先生に去られるのは甚だ残念ではあるが、これからは残された者でアイディアを出し合って乗り切っていかなくてはなるまい。事態の本質を突く批判の目、斬新かつ柔軟な発想、大胆な実行力等々、努めて継承してゆきたい。衆知を結集すれば何とかなる—かな？なおかつ、各自、自身の研究もおろそかにせず（うーん、難しい！）。（名）

二〇一四年三月二十五日 印刷  
二〇一四年三月三十日 発行  
藤女子大学 国文学雑誌（第90号）

振替 〇二七〇〇一四一六八〇七番  
定価 五〇〇円 送料八〇円

編集人 関谷博  
発行人

札幌市北区北十六条西二丁目

発行所 藤女子大学日本語・日本文学科研究室内

藤女子大学日本語・日本文学会

印刷所 札幌市中央区北六条西十五丁目

株式会社アヴァン札幌